

平成 27 年度 SGH 課題研究基礎力養成講座『学内留学』第4回および年間実施報告

指導教諭(SGH 委員長) K.M

Welcome back to Osaka, everyone. (みんな、お帰り)と言いたくなるような閉校式だった。各専攻の代表者によるプレゼンテーションは高校生を範囲を超えていた。聞き手の反応も極めて真摯で、前向きなものだった。4年目を迎えた『学内留学』は前年度の2度の学校説明会で公開したことも影響したのか、1年生 121 名、2年生 8 名と過去最多の受講生を迎えて7月 11 日にスタートを切った。その日の朝、9時からの開講式に向かうために8時 13 分大阪駅発のバスに乗っていた私の隣で、1年の N 君はこう言った。「中学3年生の時、憧れていた講座に今、向かっていることは本当に嬉しいです」と。心の底に熱い思いが溢れた。

「教育学」「法学」「ビジネス学」「心理学」の4分野の大学レベルの英語での授業が、1日に50分授業が5時限行なわれるこの講座は、次に揚げる生徒の感想にも多く語られているように、北野の空間をある瞬間に海外の大学の教室へと変える。

来年度から、1年が文理学科のみとなることも鑑み、現在の講座に「天文学(astronomy)」「環境学(environmentology)」の2講座を加えて、6講座の体制で「学内留学」は続いていく。来年度7月9日の開講式で、キラキラ輝く多くの瞳に会えることが今から楽しみでならない。

(1)学内留学を受講して(教育学編)

1年 K.T

とても楽しく、面白い授業でした。授業を受ける前は、英語だけで一日5時間もの講義を受けることに不安な気持ちを抱いていましたが、かえって普段よりもまわりの生徒と協力して授業を受けることができました。日本語の授業と違い、気を抜いているとたちまち講義を理解できなくなってしまうので、適度な緊張感のなかの授業となりました。内容は専門的でありながら、難しい単語や聞きなれない語が出てくるとしっかりと解説していただけたり、さらには自分たちでその意味を推測してみたりと、すべての機会を有効に活かす授業はとても新鮮なものでした。私が受けた“教育”の授業では、授業にはどのような要素があるのか、学びに対する特性にはどのようなものがあるのか、その特性にはどのような作業、および授業形式が向いているのか、そのためにはどのような授業構成をすべきか、など、生徒の個性を活かす教育についてのお話をたくさんしていただきました。一回の授業間に出る宿題もレベルが高く、これをしっかりとやるかやらないかで、前の授業で得た知識を自分のものに出来るか、次の授業でどれだけ力をつけられるかが大きく左右されると思いました。

学内留学の成果の集大成ともいえる最後のプレゼンテーションでは、各グループが工夫を凝らした授業を展開していて、同じことを聞き、学んだはずなのにこれほどまでに差が出るのか、と思うほど多種多様な授業形態をみることができました。英語で学んだことを、自分からも英語で発信していくことは、苦手だった英語に対して前向きに取り組んでいこうと思うきっかけをくれました。学内留学での授業はどれもためになるものでしたが、この学内留学の授業を通して私が最も強く感じたのは、“英語を学ぶ必要性”です。私たちが普段、英語の授業を受けているのは、文法や表現などを学ぶためではなく、“英語を使って学ぶ”ためです。私はこの講座で自らの英語力のなさを痛感するとともに、改めて英語を学ぶ意義を再確認させられました。英語が

得意な人も苦手な人も、たくさん学べることがあると思います。ぜひ参加してみてください。

1年LJ

学内留学を受講するにあたって私は、自分の中で1つルールを決めることにしました。それは、授業中に英和・和英辞典を一切使わないということです。意味がわからない単語は英英辞典を使って調べるようにし、プレゼンテーションや発表の資料なども全て英語で調べるようにしました。なぜかという、授業が全て英語で行われる学内留学は、日本語の思考を使わずに、英語で考えて英語で表現する能力を鍛える絶好の機会だと思ったからです。

私は Education の授業を受講しました。この授業は、生徒に対して授業をする手法を Visual, Auditory, Kinesthetic の3つに分類し、より効果的な授業を考え、グループワークやプレゼンテーションをするといった内容でした。発表の準備などやらなければならないことがとてもたくさんあり大変でしたが、最終日に多目的ホールで発表をさせていただき、なんと優秀者の表彰までいただけてしまいました。私達のグループは「Les Misérables」の授業についての発表をしました。先生に「多目的ホールでみんなに『民衆の歌』歌わせちゃってもいいですか?」と聞いたら、「めっちゃええアイデアやな、やっちゃえ」と言ってくれました。私は準備時間が足りず、「原稿を書かずにその場で考えて喋る!」という無謀なチャレンジをしてとても緊張しましたが、楽しく発表することが出来ました。

この学内留学を通して、人前で発表し、話すことの難しさをあらためて感じました。また、英語を実践的に使えるようになるには普段の勉強ももちろん重要ですが、実際に英語で考え、英語を使って話したり書いたりしなければならないと実感しました。この経験を今後の英語学習や、何かを発表したり、プレゼンテーションをしたりする機会に生かしていきたいと思います。

1年H.T

今回の学内留学を通して感じたことは2つあります。1つ目は、自分の英語力がいかに足りないか、ということです。実は学内留学が始まる前に、一通りの内容を予習して講義に臨みました。そのため、先生の授業を聞いて理解することは出来たのですが、「多重知能」「VAK 学習スタイル」を使った授業でのグループワークや相談などでは、言いたいことをうまく英語に訳すことが出来ず、悔しい思いをしました。最終日に行った授業の準備では、「日本語ならほんの五分で終わる説明なのに…」と何度思ったか分からないほど時間がかかりました。でも、その分だけ上手く言えないことをかみ砕いて伝えたり、分からない人が分かるようにするにはどうすれば良いのかを考えられるようになりました。それでも、限られた自分のボキャブラリーで人に物を伝えきるには限界があります。今までのように、ただテストに出やすい物を覚えるのではなく、相手にしっかり自分の言いたいことを伝えられるように多くの言葉を学んでいきたいと思っています。

2つ目は、先生方が日頃どれだけ教えることに苦労されているかが少し理解出来た、ということです。「VAK 学習スタイル」とは、生徒一人一人が個々のすぐれた感覚(目鼻口手など)に応じて脳の部位を刺激できるように授業を工夫する、というものです。しかし実際に自分たちで「VAK 学習スタイル」を取り入れた授業をしてみると、時間も労力もただ説明するだけの時と比べて二倍かかってしまいました。Peter 先生の講義を聞いた後、改めて北野の先生方の授業を

受けてみると、音・映像・実験・発表など、生徒の印象に残る工夫がたくさん為されていることに気づくことが出来ました。

丸一日英語で授業を受けるというのは自分にとって貴重な体験でした。出来ることなら年に4回だけでなく、一年で全4コースの講義を受けることが出来ればなお良いのにと思いました。このような機会を与えてくださりありがとうございました。

(2)学内留学を受講して(法学編)

2年 K.G

私が学内留学に申し込んだ動機はただ名前が物珍しく思われたことだった。当然ながら、自らの英語運用能力に自信もあった。しかしながら、実際に参加すると、驚きと発見の連続であった。字数の都合上、その全てを書き記すことは不可能だが、特に印象的だったことを述べたい。

まず一つは担当教員についてだ。私の受講した法学コースでは Larson 先生が指導して下さった。授業は非常に丁寧で明快、ユーモアに溢れ、かつ、弁護士であるので法学的知識も計り知れないものがある。そのような素晴らしい方だった。生徒の積極的な授業参加を求め、私に euthanasia など数々の難単語の語義を説明させてきたことは特に忘れられない。また、様々な場面で親切にいただいたことに関しても非常に感謝している。

さらに重要なことは、5年目の古い付き合いである英語に対する新たな「気付き」である。このコースは、法律英語はもとより、プレゼン(もちろん英語です)技能の習得も目標としていた。さらに、クラス内で最も優れたプレゼンをしたチームは花ニラバッジが授与されることになっていた。無論、今までの英語経験から、プレゼンを行うことは造作もないことであった。一方で、発音が悪かったり、原稿を憶えていない人も数多く見受けられ、内心、私は自信満々であった。しかし、結果は違った。私は敗因を分析した。そして、一つのことに気付いた。それは、言葉の本質とは何かである。通常、英語学習において重要とされるのは構文、単語、発音、語法などである。だが、それより重要なのは話の中身である。中身のない言葉は相手に響かない。響かない言葉は話す必要がない。話す必要のない言葉は学ぶ必要がない。その時、私は英語に真に必要なものは何であるかを理解したのだった。その点では、ある意味、私は英語話者として一種の開眼をしたのだとも言える。

さて、長々と述べてきたが、結論としては、学内留学を受講したことは自分の英語学習において大いに有益であったと思う。このまま英語を学び続けていたとしても、これからの英語学習は非常に直線的なものだったかもしれない。以上のことから、これからの北野生にも学内留学への参加を強くお勧めしたい。苦勞の対価に得られるものがあるだろうと私は考える。

2年 I.S

Actually, I'd like to write this report in English, but I may not be able to tell you how wonderful this program was in English. So I'm going to write this in Japanese.

7月に1回目の授業を受けて半年、4回にわたる学内留学のすべての講座が終了した。私自身、英語の学習は大好きで、学内留学そのものには1年生のときからかなり興味を持っていた。ただ、周囲のレベルの高さと、“All English”という言葉の響きに強い不安を感じ、結局、参加

せずに終わってしまったのだ。今になって振り返ってみると、損をした気分である。

そして今年、決意を固めて、法学“law”コースを受講した。まず1番の不安は「授業が理解できるか」だった。“All English”で、しかも法学という難しい話の内容が自分にできるのか、ということである。しかし、講師の Larson 先生は難しい単語を言いかえてくれたので、辞書を引かなくても英語のままその単語が理解できた。もう1つの不安は「英語でコミュニケーションができるか」だった。もちろん、留学経験のない私にとって英語での会話など初めてのことで、しかも知らない1年生たちと会話をするのだ。相手にしっかり伝わっていたのかはわからないが、何回も英語での意見交換の機会があった。その中で、英語で話そう、英語で話したい、という自分が生まれたことには驚いた。ほかに、プレゼンテーションやスピーチのポイントは発表ごとにフィードバックでき、4回の授業ごとに確実にレベルアップしているという実感を持たた。

「英語を学ぶ」ことは受身の学習になりがちだ。しかし、この学内留学では「英語で学ぶ」という積極的な学習の機会を得られたと感じた。そして、それに本気で向き合うことは、日々の学習はもちろん、経験のひとつとして将来を選ぶ際の参考にもつながると思う。来年は今年開講された4講座に加えてさらに2講座追加され、全6講座が開講されると聞いた。もし参加しようかどうか迷っている人がいたら、ぜひ参加してもらいたい。——その迷いが不安からくるのなら、なおさら参加すべきだろう。

1年 A.T

学内留学の案内の紙が配られたとき、驚いた。自分の名前が法学の欄にあるではないか。今まで法律について勉強したことがなかった私がまずしたことは、スマートフォンを取り出して「法律 意味 意義」とグーグル検索をすることだった。しかし私が期待していたのと裏腹にコンマ数秒で出てきたのは堅いサイトばかりで、書かれていることはほぼ理解不能だった。この予習が私にもたらしたものは、やる気の喪失と学内留学へ不安だけだったと思う。

このようにして迎えた初めての学内留学の日。不安でいっぱいだったが先生がとても面白くひとりひとりをきちんと見てくださったので、分からないところも質問しやすく、授業が終わるころには不安がまったくない自分がそこにいた。初めて出された宿題は、グループで発表をすること。具体的な事例を元に、不法行為の内容・判決を述べる。どのくらいの不法行為に、どのくらいの刑罰を与えるべきか。類似したさまざまな事例を調べ、判決を決めた。結果としては、私たちが不法行為とみなさなかったものも不法行為であり、判決としては足りないところもあったが、学内留学に参加して初めて楽しいと前向きな気持ちになれた。

それから、毎回プレゼンテーションの宿題が出された。普段の情報の授業などでは、一人でパワーポイントを作ることが多く、ほかの人と協力して発表をするということがなかったので、戸惑うこともしばしばあった。例えば、プレゼンテーションの原稿ひとつとっても、重要なところを箇条書きし、それを頭の中で組み立て、読み上げるタイプの人がいれば、文章をあらかじめすべて書いておき、それを読み上げるタイプの人もいたので、読み手交代の際に躓くことが何回も起こった。

振り返ってみると大変だったが、参加したことは私が成長できる大きな機会であったことに違いない。今後の生活において英語力はもちろん、今回の学内留学で学んだすべてのこと生かしていきたいと思う。

(3)学内留学を受講して(心理学編)

1年 H.M

1年間の学内留学を終えて、私のなかには様々な思いが入り乱れています。1つは驚き。あたりまえ、と言われるとそうなのですが、先生からの指示、話し合い、発表、質問全てが英語です。噂には聞いていましたが、初めて授業を受けた時はびっくりしました。さらに、内容もとても濃いです。大学とかでやるような内容もあり、とても面白い題材ばかりで、何度(普通に日本語でこの内容を勉強したい!)と思ったかわかりません。本当に心理学を学ぶために留学してきました、という感じでした。

もう1つは、達成感。すべて英語で行われる授業についていけるか正直不安で、最初は受講すべきか迷っていましたが、「やりきった！」と心から言えるいい機会だったと思っています。英語でプレゼンをするのも初めてでした。話し合いも、プレゼンも、ずっと一年間同じグループでやってきたのでグループのメンバーとの絆も回を追うごとに強くなっていくのを感じました。発表が終わったときのあの達成感は今まで感じたことのないもので、すべてうまくいった！と思えた瞬間でした。(おさらいしようと思って開けたノートに、先生の話をはほぼ英語でメモしていて、まずその解説から始まってしまいパワーポイントを作り始めるまでにかかなり時間がかかったことは誤算でしたが…。)

少し後悔していることもあります。積極的に先生に話をしに行かなかったことです。先生はとても優しくしたので、授業の合間に生徒に質問がないかどうか聞きに回って下さいました。なのに私は、聞かれたときに、(気になるところはあるけどまあいいか。)と思って“*No, thank you.*”ばかり言っていました。いっそ文法とか、話す順序とかを気にして話しかけるのをためらってしまうくらいなら、ちょっとぐらい間違ってもいいから話しかけにいこう。そんな姿勢が外国語を「自分のものにする」ために必要なことの1つなのではないか、と今は感じています。

今回の「留学」でたくさん経験をしました。が、ここで終わってしまうとそれまでです。英語と真正面から向き合うことをこれからも続けていって、少しずつでもいいから、自分の世界を広げていきたいです。

1年 R.O

今回、私は学内留学の心理学コースを受講しました。この講座を通じて、感じたことや学んだことについてまとめます。

まず、この学内留学のよかった点についてです。1つ目は、とりあげるテーマや題材が興味深く、受講者全員が積極的に参加できた点です。専門的な内容でも、わかりやすい説明なので、難しくは感じませんでした。また、難しい単語はその場で簡単なものに言い換えて教えてもらえました。2つ目は、身近なものに関連させて考えさせるところです。心理学を自分たちの生活の中にあるものを例に考えて話を進めるので、よりイメージしやすく興味が持てました。3つ目は、メモの取り方やプレゼンの作り方などを教えてもらえて、それを授業の中で実際に使うことができた点です。4つ目は、英語を聞いて英語で話すことで、普段の授業とは違った英語力をつけることができた点です。その場でスラスラと英語を話す難しさや、英語で通じ合える楽しさを知ることができました。

次に、この講座を通して成長できた点について発表します。1つ目はコミュニケーション力で

す。始めて会った人に自分から話しかけていくこと、間違いを恐れずにどんどん英語でしゃべること、人の考えを聞いて自分の考えを主張して議論することなど、多くのことを学びました。2つ目は英語力です。英語を覚えようとして学習するのではなく、テーマについて活動する中で英語を無意識に使うことで、「どんな英文で話そうかな」と考えることから、しだいに「どんな内容を伝えようかな」と考えて自然に英語が出てくるようになりました。3つ目は、人に伝える力、聞く人の心に残る話し方についてです。自分の発言やプレゼン、また他の人の発表を聞いて、どのように話せば人に伝わるのかが少しわかりました。話す速さや強さ、ジェスチャーや強弱、そして何より、伝えたい！という気持ちをもつことが大切だと感じました。

最後になりましたが、講師の方をはじめ、このような貴重な場を用意してくださった先生方、そしてたくさんの刺激を与えてくれた生徒のみんなにとっても感謝しています。ありがとうございました。

1年 N.A

僕が今年度の学内留学を受講しようと考えたのは、「本当の英語に触れたい」という思いからでした。中学生の頃から「学校の先生の英語は本物じゃない」と感じていた僕は、北野高校に入学し、native の講師の方による all English の授業だというこの講座を知ってすぐに、申し込み用紙を提出しました。一年間を通してこの講座を受けて、僕が特に学んだことは二つあります。

一つ目はもちろん、英語についてです。一年に五回と回数は非常に少なかったものの、一日中(五限分)をまるまる本物の英語だけで過ごすことで、聞く力・話す力がのびたと思います。先生は本当に(・・・)すべて英語で話し、気をつけて聞いておかないと置いていかれてしまうので、集中力も身につきました。よく、「学校の授業では書く力・読む力は身につくが、聞く力・話す力をつけるのは難しい」と言います。その通りだと全面肯定はしませんが、ある程度は正しい、と僕は思います。しかし、学内留学のこの講座ではその聞く・話す力をフルに使うので、本当にいいトレーニングになります。

二つ目は、プレゼンテーションの技術についてです。最終授業の日には、グループによるプレゼンテーションをせねばなりません。約十分間、all English での発表です。ほかのコースについては詳しく知りませんが、少なくとも僕のクラスの先生は毎時間、PowerPoint を使って授業を展開していたので、それが自分たちの発表のための参考として大いに役に立ちました。また授業の中で、(特に英語での)プレゼンテーションの方法について聞く機会もあり、とても役立ちました。

僕の今回の申し込みは『当たり』でした。当初僕が期待した「本当の英語」をじっくり体験することができました。プレゼンテーションの技はきっと、日本語・英語のどちらの場合でも役に立つと思います。この文章では、当たり前ですが、学内留学について全然話しかけていません。でも確実に言えることは、一回挑戦してみて良かったということです。

(4)学内留学を受講して(ビジネス学編)

1年 I.R

わたしはオールイングリッシュの授業に興味を持ったので申し込みました。といっても、友人

の多くが受講するからという軽い気持ちもふくまれていましたが、第一希望でないビジネスコースになったわたしは、正直に言うと場違いなところに入ってしまったと感じました。そもそもビジネスには、さほど関心がなく、ましてやそれが英語になるなんて…はたして理解できるのでしょうか。最初の授業、予め課されてあった宿題も、ろくに手をつけずに参加しました。予想を裏切らず、授業の進度は早めで、宿題しておいたらよかったと後悔しました。同じクラスの人たちは余裕で先生の話す内容をのみこんで次の作業に取り組んでいます。それなのにわたしは、ずっと足踏み状態。このままではいけないと思ったので次の授業からはがんばろうと決めました。そこから大変苦戦したのが、膨大な量の宿題です。まず、出された宿題の意味、何をすればよいのか、がわからなくて本当にたくさんの友人に聞いてまわったのを覚えています。そんな風にして最終的に宿題を仕上げることができたり、できなかつたり。みんな部活などで時間がとれず、毎回大忙しでした。

わたしが学内留学を受講して得られたと思うことがあります。その、出された宿題の中には、パワーポイントをつかって、それをを用いて授業内でプレゼンテーションを行うというものがありました。わたしはパワーポイントなんてつくったことがないに等しかったので、終わるのに時間がかかりました。慣れてくるにつれて、先生のアドバイスを参考に、表やグラフ、画像を挿入したり、見やすいように文字数は最小限に抑えるなど、今となっては当たり前前の事柄を意識できるようになりました。学内留学を受講する前と比べると、パワーポイント制作のスキルは格段に向上したように思えます。

授業で教わった世界情勢は、やはり完全に咀嚼する地点にまでは到達しなかったけれど、世界規模で課されていることについて少しだけ考えることができた気がしました。わたしには難しかったですが。

最後には学内留学を終えて、達成感でいっぱいでございます。受講してよかったです。

1年 I.R

英語力を上げるにはどうすればよいか？この問いに対して自分なりに出した答えが、「日常的に英語に触れること」。All English の授業である学内留学は、まさにぴったりだった。1度目の授業(business class)を受けて、僕は驚いた。5時間もの間、クラスメイトとの話し合いでさえ、一切日本語は使わない。そればかりか、従来の英語の授業のようにスピーチの型を学ぶだけでなく、市場において消費者の受ける影響など、より発展的な内容も学ぶのだ。文字通り、「ビジネス学」の授業をそのまま英語にしたようなものであった。

さらにその宿題も、パワーポイントの作成やプレゼンの練習など、すぐに終わらせることのできないような量が出された。このプレゼンテーションの作成の宿題は、能動的な勉強と受動的な勉強の量のバランスを保ってくれた。先生の説明を聞くだけでなく学んだことを利用することによって、さらに英語力を上げることができた。2回目以降の授業では、クラスメイトの発表を聞くことができた。これによって、クラスメイトのプレゼンのテクニックを自分の発表に取り入れることができ、また先生の講評を聞くことで、発表している本人だけでなく、聞き手も学ぶことができたと思う。

この学内留学を通して、コミュニケーション能力を上げることができた。またそれだけでなく、先生の英語の質問や指摘に対して即座に英語で答えることは、日常的に英語を話すことの練

習にもなった。授業内以外でのプレゼンの作成課題では、積極的な勉強を習慣にすることができた。自分から英語に触れることの大切さを知り、最終日には優秀賞を頂けた。このような素晴らしい賞を頂いたことを誇りに思う。今回学んだことを生かして、困っている外国人の方に道を教えるなどの些細なことからも、英語に触れる機会を持ちたい。

1年 T.A

結論から言うと学内留学は楽しいものではなかった。しかし参加してよかったかと問われれば、「はい」と即答する。

僕は、ビジネスについて学びたいと思いこの学内留学に参加した。英語は好きではなかったが、何とでもなるだろうという軽い気持ちで応募した。実際わからないことも多く戸惑うことも多々あったが、何とかこなした。この講座ではビジネス、心理学などに講座のテーマが分かれているが、それについて学ぶというよりは、英語でスピーチをすることがメインだった。毎回の発表の準備、パワーポイント作成などは全て宿題で、当然その説明も英語なので、いざ宿題をしようとしても、何をどのようにするのかもわからないような有様だった。がんばって準備して授業に臨んでも、先生は僕たちが考えもしなかったような質問を次々にぶつけてきた。「なぜその位置にその写真を入れたのか?」「なぜ背景はその色なのか?」「なぜ君はそこにいるのか?」果てしない質問攻めに、皆、四苦八苦していた。

はじめは、先生が指摘して下さった点についても、半ば無視していたが、回を重ねるごとに先生がおっしゃることは全て、英語だけでなく、日本語で発表するときにも、基礎となり、効果的、且つ必要不可欠なものであることが身にしみて分かった。期限までに調査などをして、それをパソコンなどでまとめる作業は将来的にもいい体験だったと思う。

もし英語が苦手だからとか、自分の興味のある分野が無いからなどの理由でこの講座に応募しようか迷っている人がいれば、この講座は英語や専門分野だけでなく、人前で発表するという、あらゆる分野において必要なスキルを獲得できるものだと思はるので、ぜひ参加してほしいと思う。

